

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 学校運営協議会の会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和3年3月23日(火) 13時30分から14時35分まで	開催場所	会議室(オンライン含む)
出席委員	<p>人数：7人(欠席1名)</p> <p>委員氏名(役職)</p> <p>高田 幸典氏(大崎上島町長)</p> <p>小川 裕壮氏(大崎上島商工会会長)</p> <p>改発 祐一郎氏(東京都立国際高等学校市民講師)</p> <p>坪谷ニューエル郁子氏(東京インターナショナルスクール理事長)</p> <p>草原 和博氏(広島大学大学院教育学研究科教授)</p> <p>野島 忠輔氏(PTA会長)※御欠席</p> <p>福嶋 一彦(広島叡智学園中学校・高等学校校長)</p>		
会議の概要	<p>○自己評価に基づく取組の振り返り 本校から、学校経営計画の項目に従い、国際バカロレア、寮生活など、本校の教育活動について、説明を行った。</p> <p>○学校運営に係る協議・意見交換 各委員からは、次のような御意見等をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを用いた教育活動や、教科を越えた学際的な教育活動などが実践できていることは素晴らしい。生徒たちの学校生活が充実してきたということがよく分かる。 ・「自分プレゼン」については、DPの科目選択やSL・HLのレベル選択について、また、高等教育に移行する際に、学問領域を選択していくのかを、生徒たちが考えられるように、学校側でタイムラインに落とし込みながら、取り組んでもらうと良い。 ・DPはMYPと比べると、質的にも量的にも格段にレベルが上がる。当然、生徒の物理的な負担が増加し、それに伴って教員の負担も増加する。広島叡智学園の場合は、生徒数も多いことから、慎重に計画を立てていく必要がある。 ・全寮制という特徴を考慮すると、教員の時間外勤務の縮減に向けた取組と同時に子供たちと積極的に関わることのできる仕組みを考えることが重要である。 <p>○1年間の振り返りと来年度への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大崎上島町においても、国の方向性と合わせ脱炭素の取組を進めている。広島叡智学園の生徒には、この大崎上島町をどうしたいか、どのように活性化できるかという提案をしてもらいたいと期待している。 ・今後も、生徒の心に寄り添って、厳しくも暖かい指導を引き続きお願いしたい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、海外からの留学生の受入れが困難になる可能性があること懸念している。代案も用意しながら準備を進めていくと良い。 ・MYPを通して、探求型、概念理解型、教科横断型の学習を実践できている。これをDPでも継続し、発展させてほしい。DPでは最終試験があるので、そのスコアに関心が集まり、学習方法が軽視される傾向にある。そうならないように取り組んでほしい。 ・これから海外からの留学生を迎え、生徒数も増加していく。学校規模が拡大していくこととなり、様々なステークホルダーとの関わりが出てくるため、これまで構築した仕組みを再度見直す必要がある。 <p>以上、委員の皆様のそれぞれの立場から、貴重な御意見をいただいた。 本校としては、いただいた御意見をもとに、次年度の学校運営に活かしていく所存である。</p>		
次回開催予定日	令和3年7月初旬		